

「昔流甦大地（せきりゅうだいちによみがえる）」の碑

久慈川の河口は昭和44年から51年までのショートカット工事で直進して太平洋に注ぐようになり、かつて1.6kmにわたって北上して旧河口に注いでいた流れは消滅した。この碑は久慈浜の人たちが中心になって「昔の流れを忘れないために」平成11年に建立した。急角度に曲がる旧河道のために度重なる洪水に苦悶していた日上市留町などの人たちと、利害が対立した旧河口の久慈浜の人々との長い確執を物語っている。



「昔流甦大地」の碑(日上市)



かつての久慈川河口(昭和40年撮影)

(小林弘、「ふるさとくじはま」より)

(手前右が久慈浜の漁港、左手に巨大な砂州の向渚が延びている)

(2) 治水の現状

直轄管理区間の山付き等の堤防不要区間を除く計画堤防延長は、本支川の左右岸合わせて85.1kmであり、平成15年度末における堤防の整備状況は完成堤防が66.4kmであり、その整備状況を表3-4に示す。

表3-4 久慈川の堤防整備状況(平成16年3月現在)

河川名	直轄管理区間延長 (km)	堤防延長(km)	
		計画堤防延長	完成堤防延長
久慈川	27.6	48.7	36.9
山田川	10.5	18.6	17.7
里川	9.7	17.8	11.8
計	47.8	85.1	66.4

